

令和4年度 阿賀野市男女共同参画プラン推進協議会 議事要旨

1 会議の概要

日 時：令和5年2月21日（火）午後2：00～3：30

場 所：安田交流センター 3階 大会議室

出席者：【委員】井上会長、小野副会長、渡辺委員、小泉委員、星野委員、山口委員、
上松委員、藤田委員

【市】事務局：企画財政課（西潟課長、長峰係長、浅間主事、富岡主事）

2 議事概要

- （1）会長、副会長の選出について
- （2）会議公開の取扱いについて
- （3）阿賀野市男女共同参画プランについて
- （4）令和4年度女性財団サテライト講演会の実施報告について
- （5）新潟県女性のつながりサポート事業について
- （6）生理の貧困対策事業について
- （7）令和5年度事業について

3 発言の内容（主な意見等（○：委員 ●：市））

- （1）会長、副会長の選出について
→井上委員を会長に、小野委員を副会長とすることを決定
- （2）会議公開の取扱いについて
→今年度における会議公開の取り扱いについて事務局より説明
- （3）阿賀野市男女共同参画プランについて
 - 「男女共同」に関して、現在の世の中の現状を踏まえると、小さな頃からの教育が大切だと感じる。様々なセミナーなどで勉強する機会を与えて意識を変えていかなければならない。
 - 子育てをしながら働くというのは、大変なことであるが、それぞれの個性を阿賀野市で発揮して働けるような環境をつくっていただきたい。
 - 子育てをする中で、近年周りの男性の育児参加が目立つようになってきたと感じている。しかし、その一方で、男性の育休取得率が上がらない理由については、家庭の中の

問題ではなく、職場の雰囲気や上司に言いづらいなどの環境に問題があるのではないか。

○学校の先生へのパワハラに関する監視の目が厳しくなったことで、先生も注意しづらくなっているのではないか。また、子どもたちが先生を軽く見ている姿が見受けられて、親として注意している。保護者が学校に対し、様々な意見を言うようになってきていることも影響していると感じる。

○「パパ・ママ育休プラス」という制度があるが、制度内容が理解しづらい。もう少しわかりやすくなると、取得しやすいのではないか。市役所の男性育休取得率が0%だったことについては、取得する男性がいなかったということか。

●対象者の内訳までは記載していないが、令和3年度の対象者は、消防職員が多く、シフトの関係からなかなか取得しづらかったとの意見はあった。(企画財政課係長)

○市立小中学校の女性の管理職は、校長先生は1人、教頭先生は2人である。職員の男女比は、小学校では女性の方が多いが、管理職を志望する職員が少ない。男性の育児参加が増えてきていると言われているが、家庭内の負担は女性の方がまだまだ大きいと感じる。女性が社会に進出するためには、男性がもっと家庭内の負担を支えていかなければならない。

○昔は、就職する時点で、女性よりも男性の方が賃金は高かった。女性は家事を優先させるため、働けない時間帯もあった。今は、男性が子どものおむつを替えたり、ミルクを与える姿が多く見受けられ、「男女共同参画」が浸透してきたと感じる。

(4) 令和4年度女性財団サテライト講演会の実施報告について

○学校でも単独で講演会を開催している。今年度は、土曜日の午後で開催したが、保護者からは、金曜日の夜の方が参加しやすいとの意見があった。YouTubeで見れるように工夫をしているが、視聴回数は少なく、見てほしい親から見てもらえないというのが現状である。

○市や学校などがセミナーを開催する共通の課題として、なかなか足を運んでもらえないということがわかった。しかし、そんなに大きな壁と捉えず、職場で少し時間をとって話をする機会をつくるだけで重要性を認識するのではないだろうか。そのようなことも提案していったらどうか。

●少し工夫をすることで意識が変わるのではないか、ということに関しては、阿賀野市の公式LINEから市民の皆さんにメッセージを発信することができる。今後、事務局の方でも検討させていただきたい。(企画財政課長)

(5) 新潟県女性のつながりサポート事業について

○新潟県がこのような支援を行っているとは知らなかった。このような支援があると助かると思うが、情報が行き渡っていないと感じる。

○生理用品については、「母子家庭」より「父子家庭」のほうが、子どもが親に生理に関する話がしづらいと思う。「父子家庭」を対象に配布したほうが良いのではないかな。

●今回配布した世帯については、「ひとり親家庭」としているため、「父子家庭」にも周知を行っている。しかし、ご指摘のとおり、「父子家庭」では、生理用品に対する認識の低さなどから子どもが生理用品を購入できないなどの問題があり、「父子家庭」への配布についても検討したい。(企画財政課主事)

○子どもたちに惨めな思いをさせてはいけない。今後も様々な方法で物資等を提供していただきたい。

(6) 生理の貧困対策事業について

○学校ではどのように配布しているのか。学校によって、配布枚数がバラバラになっているのはなぜか。

●夏休み前に、市立小中学校へ本事業の周知を行っており、設置方法については、学校の判断に任せている。利用者については、生活に困っている人のみと限定するわけではないが、数が限られていることから、節度をもって使用していただくよう案内したところである。しかし、配布率が少ないから貧困の子がいない、配布率が高いから貧困の子が多いという認識を当市はせず、皆さんが必要なときに必要なものが手に入るという社会を作るために今後も支援と周知に努めていく。(企画財政課長)

○当校では、女子トイレに設置している。生理用品の利用については、最終的に子どもや保護者の判断に任せており、今後も緩やかなスタンスで実施していくほうが望ましいと感じている。

○「貧困者」は公開できるものではない。周りの人たちは節度をもってそっと見守り、必要な人たちが利用しやすい環境を作った方がよい。

(7) その他

○これだけ多くの事業を実施しているが、なかなか浸透していないという課題がわかった。市民の理解が強まれば、男性が育休を取得しやすくなったり、女性が活躍できる方向に進んでいくのではないかな。令和5年度は意識調査があるため、市民がどのように考えているのか今一度把握し、未実施となっていた事業についても取り組んでいただきたい。

○講演会の集客方法については、一つの案として、子どもをターゲットとし、子どもが遊べるコーナーを設けてみてはどうか。みなさんの話を聞きながらいろんなアイデアが生まれ、とても有意義な会議となった。本日の会議で得たものを、家庭や職場で広めていただければより意義のある会議になっていくと思う。